

常設展示リニューアルに伴う銀座煉瓦街模型変更に係る調査報告

小 山 周 子*

目 次

はじめに

- 1 銀座煉瓦街模型の変更
- 2 通りの変遷（明治～大正）と参考資料
- 3 銀座煉瓦街の錦絵
- 4 米国議会図書館所蔵のステレオ写真について（海外所在資料）

おわりに

キーワード 銀座煉瓦街 銀座通り 文明開化 開化錦絵 博物館 リニューアル 模型

はじめに

東京都江戸東京博物館（東京・両国、1993年3月開館）では、2015年（平成27）3月28日に常設展示室のリニューアルオープンを迎えることができた。2012年度よりこの常設展示改修の準備を始め、2014年12月1日から約4か月間の休室期間を設け、改修の施工工事を実施した。本リニューアルは、展示室内の各模型や映像の変更のほか、資料展示ケースの改善及び照明のLED化、サイン・パネルの改訂、床カーペットの張替なども含まれるものであった。また一方で、展示室内の全ての模型や映像について変更を加えたということではなく、実寸大模型など手をつけていないものもあり、全体としては部分改修に留まった。

本報告は、筆者が展示の担当として関わった東京ゾーン「文明開化東京」コーナー内の銀座煉瓦街模型【口絵13・14】のリニューアルについて、その変更点を記すとともに、調査の過程で参考とした資料（刊行物、錦絵、写真）の紹介を行うものである。1872年（明治5）の「銀座大火」後に建設された銀座煉瓦街は、歴史、建築、商業などさまざまな分野からの研究アプローチが試みられてきた。本稿にて模型の変更点を記録することにより、本模型の内容を整理し、今後の煉瓦街研究に資することを目的とする。

なお、当該模型の製作に関しては、報告書『復元 文明開化の銀座煉瓦街』（ユーシープランニング、1994年）が、当館の開館の翌年に、模型製作に関わられた研究者の監修により刊行されており、本リニューアル事業でも参考とさせていただいた¹⁾。

*東京都江戸東京博物館学芸員

1 銀座煉瓦街模型の変更

「文明開化東京」コーナーは、常設展示室東京ゾーンのシンボル「朝野新聞社」原寸大復元模型の中で展開している。このエリアでは、明治維新以降の諸相を展示し、2つの中項目「武都から首都へ」「欧米文化の受容」から成立している²⁾。「欧米文化の受容」の小項目「開化新名所」の展示に含まれる「鹿鳴館」「ニコライ堂」「銀座煉瓦街」の3模型は、精巧な模型製作と楽しい稼働演出により、開館時より来館者から人気と評判を得ている。いずれも縮尺25分の1で統一し、大きさが比較検討できるようにしている³⁾。

今回の常設展リニューアルにあたって、館内での幾度にもわたる検討を行った結果、「鹿鳴館」「ニコライ堂」「銀座煉瓦街」の3模型は、開館時の構想と企画を引続き活用していくこととなった。その上で模型の持つポテンシャルを活かし、より一層わかりやすく楽しいものとするためにどのような変更を加えていくかという次の検討課題に入った。

例えば、3模型とも精巧にできていながらも建築模型の見えづらい箇所や人形の表情や仕草がじっくり見えないという問題があり、これは大変もったいないことと思えた。そこで、そのような細部を収録した記録映像を常時モニターにて上映することとした⁴⁾。また、「銀座煉瓦街」模型については、通りの細部の復元が見どころであるのに対し見づらいことや、約3分間の展示演出において、通りでの万引き事件や喧嘩等を扱うのは、初めてこの模型を見る来館者には、極めて難易度が高いことが課題として浮かび上がってきた。そのため3模型については改修費用の積算も一方で進めつつ、「鹿鳴館」模型については強化ガラスの刷新を第一とし、模型や演出自体の変更は加えないこととした。「ニコライ堂」模型は背景映像の追加にとどめた。そして「銀座煉瓦街」模型について、課題を抽出した上で効果的な変更を加えることとなった。

銀座煉瓦街模型は、明治10年代後半の銀座煉瓦街を再現した復元模型である。その中心は、銀座の中央通りであるが、模型で扱われる範囲は、中央通りの範囲で言えば、現在の銀座4丁目4番地（東側6番地）から銀座5丁目（旧、尾張町1丁目）までである【写真1】⁵⁾。

銀座煉瓦街は、1872年（明治5）の築地一帯を焼き尽くす大火の後、近代国家にふさわしい街づくりとして、明治新政府によって計画、建設されたものである。計画の中心は、新橋停車場から築地居留地や諸官庁を結ぶ銀座地域に、不燃家屋（煉瓦造り）を建設し、道路を拡張・改良しようとするものであった。英国人技師トーマス・J・ウォートルス（1842～1898）が設計を担当し、建設は大蔵省建設局が行った。竣工後間もなくは、各建物の払下げの条件が厳しかったことや、人々の洋風建築への抵抗感が



【写真1】銀座煉瓦街模型の範囲
（銀座煉瓦街模型 解説板）

あったことから空き家が多かった。しかし本模型の復元年代である明治10年代後半には、新聞社のほか時計店、洋酒店、洋品店などの舶来品を扱う店舗が入居し、繁華街の賑わいを見せるようになっていた。1882年（明治15）には、新橋・日本橋間（のちに浅草まで）に鉄道馬車が開通し、煉瓦街にもレールが敷かれ乗合馬車が通り抜けた。このほか街は、馬車、人力車、大八車など多種の乗物で混雑するようになった。本模型では、建設から10年以上経過し、このような繁華街として発展していった煉瓦街の諸相を取り上げている。

今回のリニューアルでは、銀座煉瓦街模型について、抽出した課題をもとに、一層わかりやすく楽しい模型へと改良するため、以下の変更を実施した⁶⁾。

○模型を見やすく、楽しめるための変更

(1) 開館時に設計・製作完了していた銀座通り南東側の建物模型を再設置した【写真2】。開館時にこの部分の模型の製作が完了していたが、当時の検討の結果、模型の見やすさが優先されることとなり、外されて長らく保管されていた。そのため片側（西側）のみの建物模型を眺めるという状況が続いていた。この模型の再設置を行うことで、通りの両側に煉瓦造りが建ち並んでいた様子が一望でき、より正確な情景再現が可能となった【写真3】。



【写真2】 銀座煉瓦街模型 南東側の建物模型

(2) 復元範囲が一望できるように、またバリアフリーも考慮し、模型の高さを変更した。特に、上記(1)の再設置の南東側の建物模型が鑑賞の妨げにならない高さとするべく検討を行った。その結果、模型台の高さは80センチメートルから52.5センチメートルへと変更し、27.5センチメートル低くなった。



【写真3】 銀座煉瓦街模型 通りの両側

(3) 当館常設展示室内の他の模型の多くが四方向から見られるのに対し、この模型は二方向からしか鑑賞ができなかった。そのため「開化の背景」コーナー側に模型を見られるガラス窓を増設することにより【写真4】、三方向から煉瓦街を見られるようにした。



【写真4】 銀座煉瓦街模型 窓の増設

(4) 上記(3)の変更に伴い、これまで来館者から見ていなかった模型正面左側の「日報社」建物模型の左側側面について、新たに復元を追加した【写真5】。また南東側の建物の店舗看板も追加して復元を行った。



【写真5】銀座煉瓦街模型 日報社

(5) 少しでも模型に近い位置で鑑賞できるようにするため、模型正面の解説板の幅を25センチメートル縮めた。

(6) 報告書に掲載の「パノラマ銀座煉瓦街－人形・乗物・商店の模型配置」⁷⁾に基づき、新たに修正等を行った店舗と人形の設定の解説板【写真6】を設置した。



【写真6】銀座煉瓦街模型 解説板

(7) 模型の演出（案内員による解説・音声・スポット照明）について、初めての来館者であっても、まずその特徴が理解できる銀座煉瓦街の概要内容へと変更した⁸⁾。また演出の際に背面スクリーンにその解説内容の静止画を写し出すようにした。



【写真7】銀座煉瓦街模型 映像モニター

(8) 模型の細部が見られるよう通り面から店舗を小型カメラで撮影し、モニターで見られるように設置した【写真7】。この小型カメラ撮影映像については、「鹿鳴館」「ニコライ堂」でもそれぞれモニターを設置した。

(9) リニューアル前まで、3模型の連動プログラムにより、他の2つの模型が稼働する際などに、煉瓦街の模型は消灯してしまっていた。プログラムに変更を加え、消灯時間をほとんど無くすことにより、模型をいつでも鑑賞できるようにした。

○模型をより正しい復元へ近づけるための変更

- (10) 写真などの調査により、存在が確認できなかった日報社隣の蔵を撤去した⁹⁾。内閣文庫所蔵「東京府史料」¹⁰⁾によれば、1876年（明治9）9月公布¹¹⁾で入札払下げとなった煉瓦家屋（日報社建物）の内訳は、「煉化家屋 壱戸 但造作並疊建具 此建坪百五十坪」「三階造土蔵 三か所 各間口四間 奥行三間 此建坪三十六坪」「三階造土蔵 一か所 間口三間 奥行三間 此建坪九坪」「二階造土蔵 一か所 間口二間 奥行一間半一尺 此建坪三坪四勺」であった。煉瓦街模型では5棟の土蔵について、日報社建物の裏に配置済であった。また、明治10年代後半の銀座を撮影した古写真¹²⁾などからは、通り沿いに土蔵は見られなかった。
- (11) 新聞記事などの調査の結果により、現在の銀座4丁目交差点角の朝野新聞裏にあった煙突を撤去した¹³⁾。
- (12) 模型では、店舗の中で、その場所にどのような業種であったか不明な場合、想定で店舗を設置している。この推定は、1902年（明治35）の「東京京橋区銀座近戸一覧図」¹⁴⁾を基に行っており、今回、再調査を行い、その原則とは異なる尾張町新地2番地1のそば屋について、3×5間から1.5×5間とし、北側に新たに1.5×5間の書店を想定の上設置した。

以上のような変更を実施し、当初の予定通り銀座煉瓦街模型の改修を終了した。課題等も依然としてあるものの、何よりも模型全体が見やすくなったという成果を得ることができた。

なお、同模型の近くの資料展示ケースにおいて、新たに小項目「新聞・雑誌の誕生」を立項した。東京ゾーンのシンボルが「朝野新聞」原寸大模型であり、また「銀座煉瓦街模型」があるにも関わらず、明治の新聞や雑誌を扱える展示コーナーが存在しなかった。同ケースでは、「朝野新聞」や『明六雑誌』、錦絵新聞などの実物資料を展示している。また壁面のグラフィックパネルでは、「銀座で刊行された主な新聞」を一覧で紹介している。

2 通りの変遷（明治～大正）と参考資料

銀座煉瓦街模型について変更を行うにあたり、中央通りの店舗の把握は課題となった。店舗の変遷は、銀座研究の関心の一つであり、大正以降多くの文献でも話題として取り上げられてきた。ここでは、開館時の模型製作も含め、参考とした資料を紹介することにより、復元範囲の変遷を明らかとしたい。以下にあげる参考資料の内、(1)、(2)、(3)、(5)の明治期資料が、開館時の模型製作の際に中心となったものである。

- (1) 「一等煉化家屋払下帳」（東京都公文書館所蔵）

銀座煉瓦街模型を開館時に製作するにあたり、模型図面を起こす基礎資料となった。官営事業として

建設が行われた銀座煉瓦街の各家屋に関して、市民への建物の払下げを収録した文書の原本。払下げの時期は、1873年（明治6）から1890年代までにわたる。各家屋について、申請者、地主等が記載されるとともに、建物の坪数、間口・奥行、建築平面図が付与される重要資料である。

残念ながら、煉瓦街全てを網羅してはいないため、模型範囲の一部は地図等を参考にしながら推定で設計が行われた。

(2) 『東京商人録』（横山錦柵編、大日本商人録社、1880年（明治13）7月15日刊行）国会図書館所蔵
模型製作時に参考とした資料。東京で開業する商人の名簿。いろは順で商業別、区毎に掲載がされている。このうち、銀座4丁目、尾張町新地、尾張町1丁目などの該当地域の商人リストを作成した。

ただし本資料は、番地までの住所と業種、社名又は代表者名までの掲載であるため、この記載だけでは、必ずしも中央通りの店舗のものかは判断できない。

中央通り（模型の復元範囲）に関係する主な商人リスト

銀座4丁目5番地	糸物商	松井伊之助
銀座4丁目8番地	朝野新聞	朝野新聞社
銀座4丁目9番地	曙	朝陽社
銀座4丁目11番地	菓子商 パン製造	木村屋
銀座4丁目8番地	朝野新聞	朝野新聞社
尾張町新地1番地	呉服太物商 綿・フランネル卸	小倉萬二郎
尾張町新地1番地	小間物商	松浦文次郎
尾張町新地3番地	人形商	若宮喜平
尾張町新地4番地	下駄商	松本幸八
尾張町新地5番地	唐物商	堺屋清吉
尾張町新地5番地	鉄物商	中北正七
尾張町1丁目1番地	日日	日報社
尾張町1丁目2番地	鯉節商	丸屋善兵衛
尾張町1丁目2番地	運送荷物取扱	林左次郎
尾張町1丁目2番地	宿屋商	林左治兵衛
尾張町1丁目2番地	和洋小間物商 舶来	町田傳二郎
尾張町1丁目3番地	袋物商	山口栄三郎
尾張町1丁目4番地	煙草商	内田吉兵衛

(3) 『東京商工博覧絵』（深満池源次郎編、深満池銅板所、1885年（明治18）5月刊）国会図書館所蔵
模型製作時に参考とした資料。今回の改修の際に、店舗の看板や暖簾などを追加製作する上でも参考とした。東京で営業を行う商家約340店舗が、店先風景を描く銅版画付きで紹介されている。銅版画により当時の店先や販売方法、看板の種類、客の様子がよくうかがえる資料である。

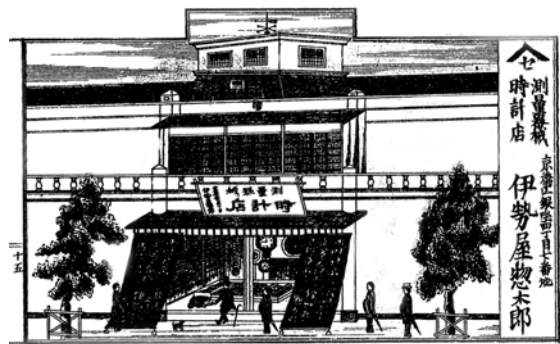
このうち、銀座4丁目、尾張町新地、尾張町1丁目などの該当地域の商人リストを作成した。

中央通り（模型の復元範囲）に関する主な商人リスト

銀座4丁目6番地	諸車製造所	秋葉大助	図1
銀座4丁目7番地	測量機械・時計店	伊勢屋惣太郎	図2
尾張町新地1番地	東京西洋酒問屋	友常組商会本店	図3
尾張町新地1番地	綿フランネル販売店	小倉萬次郎	図4
尾張町新地5番地	西洋建築鐵物商	山田屋中北正吉	図5
尾張町新地6番地	舶来品販売商	平野屋庄三郎	図6
尾張町1丁目2番地	御休泊所・汽船問屋	林左治衛	図7
尾張町1丁目3番地	東京西洋酒問屋	清水谷商会	図8
尾張町1丁目4番地	煙草問屋・両替舗	内田安兵衛	図9



【図1】『東京商工博覧絵』二編下 秋葉大助



【図2】『東京商工博覧絵』二編下 伊勢屋惣太郎



【図3】『東京商工博覧絵』二編下 友常組商会本店



【図4】『東京商工博覧絵』二編下 小倉萬次郎



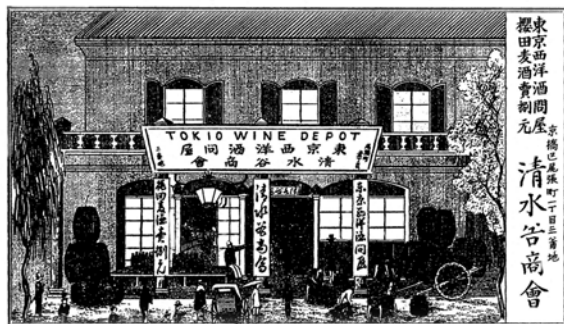
【図5】『東京商工博覧絵』二編下 山田屋中北正吉



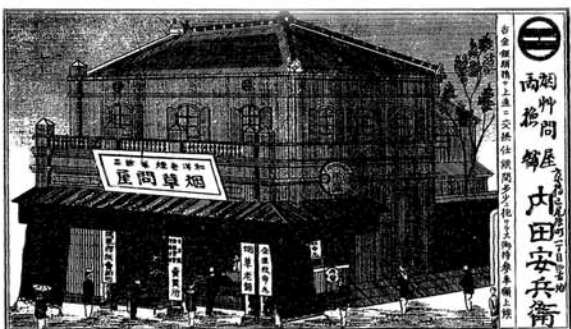
【図6】『東京商工博覧絵』二編下 平野屋庄三郎



【図7】『東京商工博覧絵』二編下 林左治衛



【図8】『東京商工博覧絵』二編下 清水谷商会

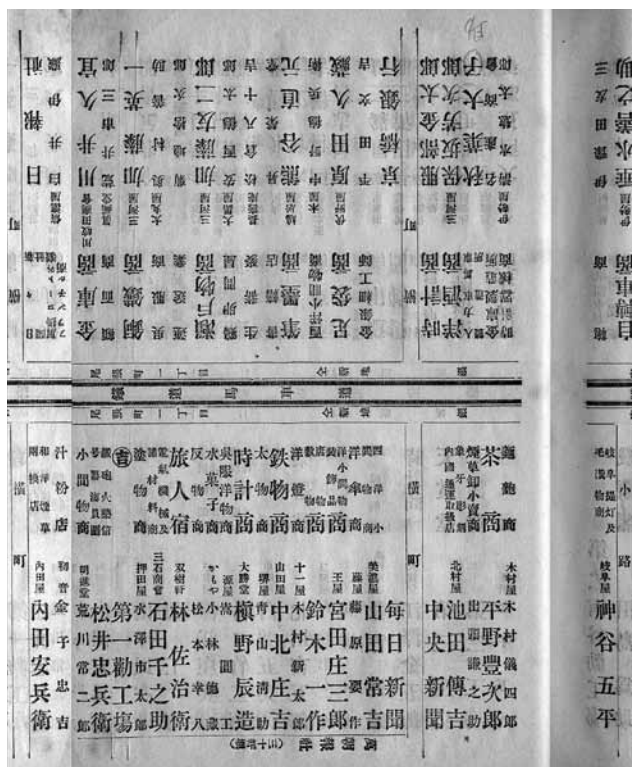


【図9】『東京商工博覧絵』二編下 内田安兵衛

(4) 『東京営業便覧 第一輯』(博報堂、1900年(明治33)2月23日刊)当館蔵
新橋から浅草までの通りの店舗を網羅した店舗案内。1900年当時の新橋、銀座、日本橋、浅草橋、浅草などの繁華街の店舗名が全て掲載されている貴重な資料である。

【図10】は、模型の復元範囲に該当する箇所である。

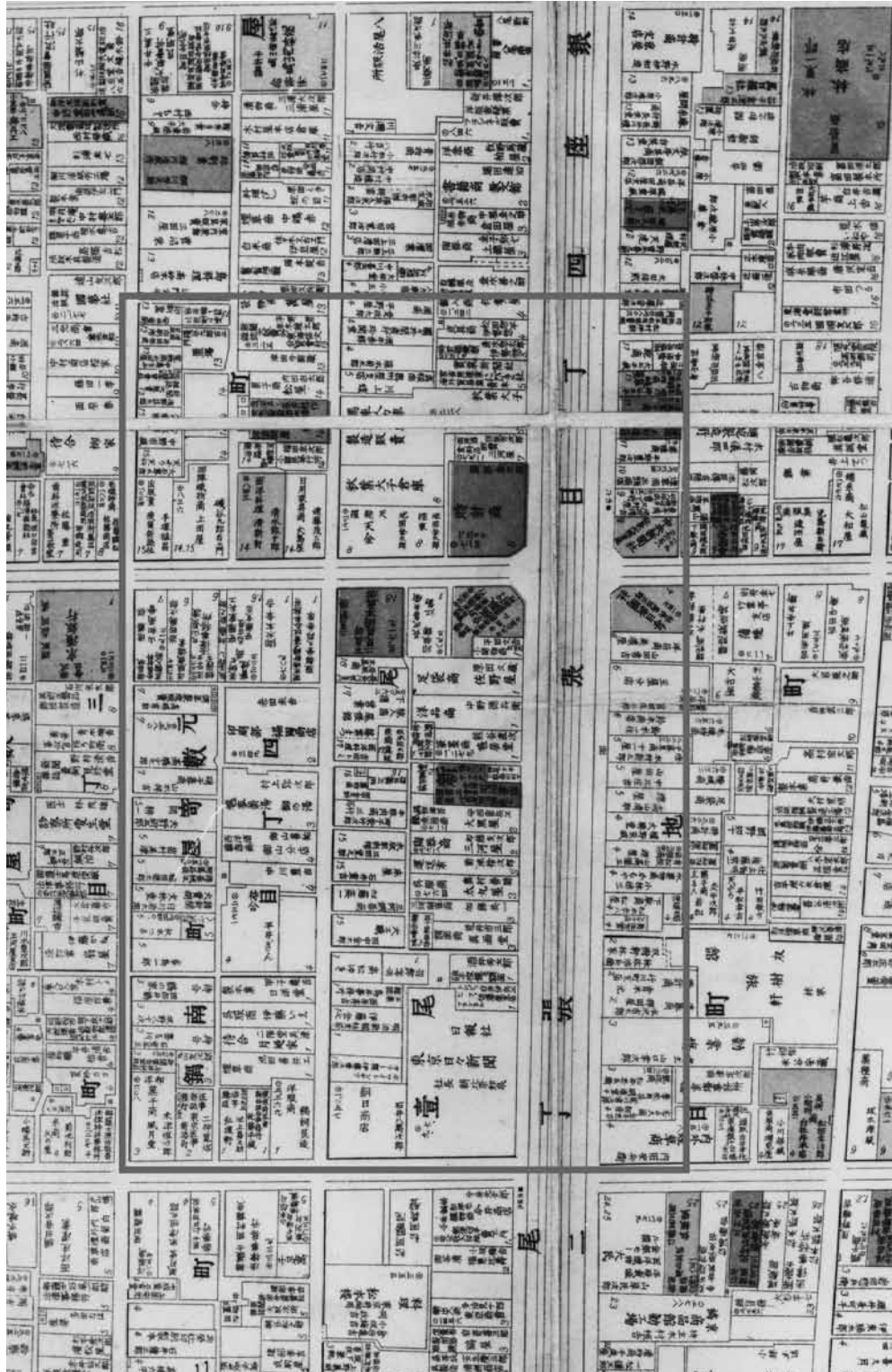
本資料は、銀座の通りの変遷を網羅的に示す資料としては従来の銀座研究では取り上げられてこなかったが、次に示す「東京京橋区銀座附近戸別一覧図」よりも2年早いものである。当館所蔵の喜多川コレクション¹⁵⁾資料である。



【図10】『東京営業便覧 第一輯』(部分、一部編集)

(5) 「東京京橋区銀座附近戸別一覽図」（平田勇太郎著、1902年（明治35））国会図書館所蔵
模型製作時に参考とした資料。明治時代の銀座全域を記録した最も精細な地図で、店舗名、業種、電話番号、井戸、共同便所の位置なども如実にわかる貴重な資料である。

【図11】の枠内が、模型の復元範囲に該当する箇所である。



【図11】「東京京橋区銀座附近戸別一覽図」（部分）

以上が、明治の銀座煉瓦街の変遷を示す参考資料である。以降は、明治から現代までの当該模型の範囲がどのように変遷したかその後の変遷を押さえるために、今回のリニューアル検討作業で参考とした資料である。

(6) 「大銀座街大観」(『銀座』所収、資生堂化粧品部、1921年(大正10)) 当館蔵

京橋から新橋までの銀座通りの絵図。中央の通りに面した両側の建物が立面のイラストで描かれているため、明治の銀座煉瓦街が震災前までにどのように変化していったのかがうかがえる好資料である¹⁶⁾。

次ページ【図12】は、模型の復元範囲に該当する箇所である。

(7) 『帝都復興一覧』(岡不崩、1924年(大正13)) 国会図書館蔵

関東大震災後の銀座通りの様子が平面図で記載された資料¹⁷⁾。震災後の商店の復興状況が、空き地・残骸・新築中の別、業種別等、細かな情報が色別で示されている。

(8) 『銀座細見』(安藤更生、1930年(昭和5))

自らの15年近くの銀ブラをもとに昭和前期の銀座を取り上げる銀座研究書。通りの店舗については、店舗名を記す。

(9) 『銀座残像』(師岡宏次、1982年(昭和57))

写真家の師岡宏次氏によって1982年(昭和57)4月に行われた調査¹⁸⁾が記される。氏は、1930年(昭和5)から50年余りにわたって、銀座の街の移り変わりを撮り続けられた。

以上の資料をもとに、通りの変遷を整理するため作製したのが、文末折り込みの【別表1】【別表2】である。【別表1】では中央通り西側を、【別表2】では中央通り東側を取り上げた。当館模型では、ガラス面正面が【別表1】で、ガラス面側に復元が東側【別表2】である。

別表を作成するにあたり、写真資料¹⁹⁾、地図資料²⁰⁾なども参考にした。

3 銀座煉瓦街の錦絵

銀座煉瓦街の建物や風俗を知る上で、明治の錦絵には多くの情報が含まれている。模型の製作の際にも、特に総計500体の人形製作において参考にしていく。今回のリニューアルの検討において、館蔵の錦絵を改めて調査し直したことから、どのように煉瓦街が描かれたかを地点ごとに簡単にまとめておくこととする。

文明開化のランドマークを描き出した開化錦絵において、銀座煉瓦街は浮世絵師がよく取り上げた画題の一つであった。同時代では、築地ホテル、第一国立銀行、新橋停車場、日本橋などが描かれたが、

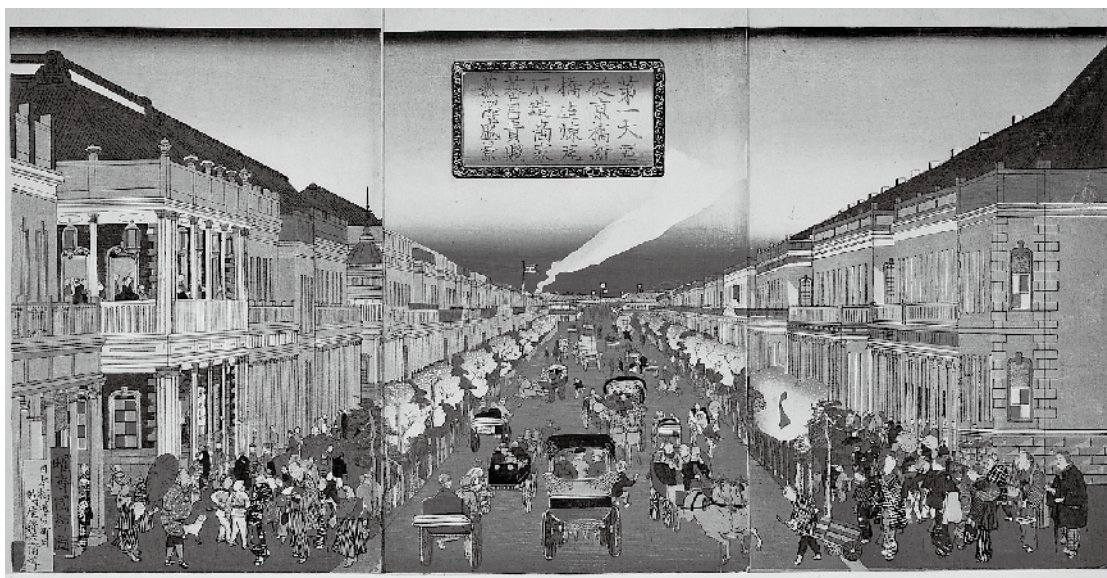
それらの建造物が単体で大きく描かれるのに対し、街路である煉瓦街は全てを描き切ることはできない。そのため煉瓦街のどの部分をどのように描くのかを、浮世絵師や版元がニーズを見ながら選択していたと言えるのである。

○銀座煉瓦街 京橋側

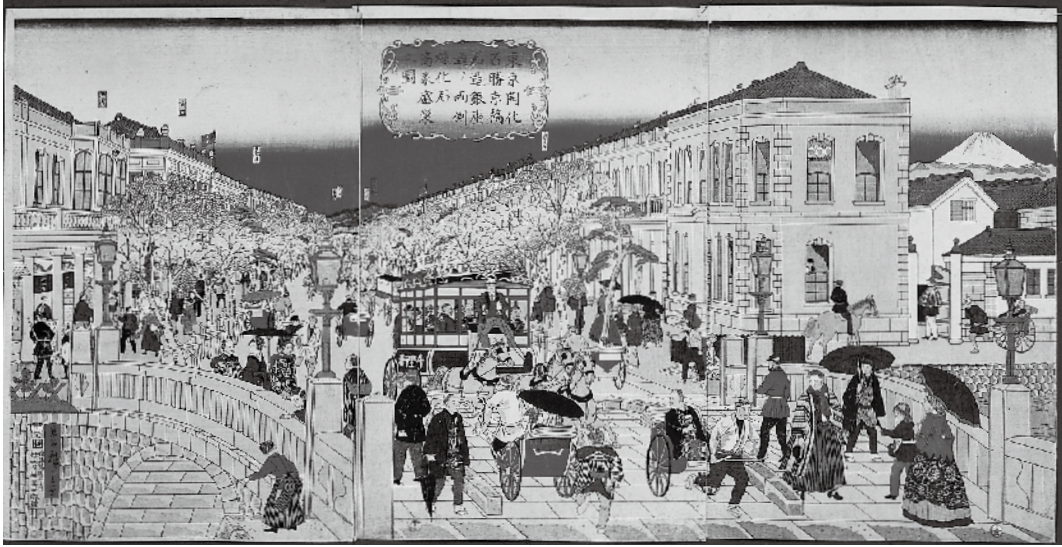
銀座煉瓦街を取り上げる錦絵の中で最も多いのが、京橋側を描いた図様である。なかでも最も見られるのが【図13】のような、京橋のたもとから南側新橋方面を見通した図様である。開化錦絵は、歌川広重（3代）や昇斎一景、歌川国輝（2代）などが描いたが、いずれの絵師も京橋側から描き出している。画面左側の白いベランダが特徴的な建物は、銀座1丁目にあった料亭の松田²¹⁾で、この京橋側の銀座煉瓦街の錦絵では中心的に描かれることが多い。また、煉瓦街向かって右側の手前から4軒目の建物も、白く目立つように描くが、これは日就社（現、読売新聞）の建物である。

同じく京橋側から描いたのが、【図14】である。本図は京橋全体が手前に描かれ、その奥に銀座煉瓦街が展開する。初代広重が手がけた保永堂版東海道五拾三次の日本橋と同様の構図である。画面の右奥には、富士山が見える。本図でも左側に料亭の松田が描かれ、その手前に「玉ずし」が店舗内の様子も含め描かれている。

京橋に向かって描いた作品が、【図15】である。そのタイトルのとおり、通りを走る鉄道馬車が主題であるが、右に「玉ずし」の建物が描かれる。この建物は、窓の形が特徴的であった。また、京橋の橋のたもと近くにあった竹屋間屋街も奥に描かれている。この竹置場は、初代広重の「名所江戸百景 京橋竹がし」でも描かれた。



【図13】第一大区従京橋新橋迄煉瓦石造商家蕃昌貴賤藪沢盛景



【図14】東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図



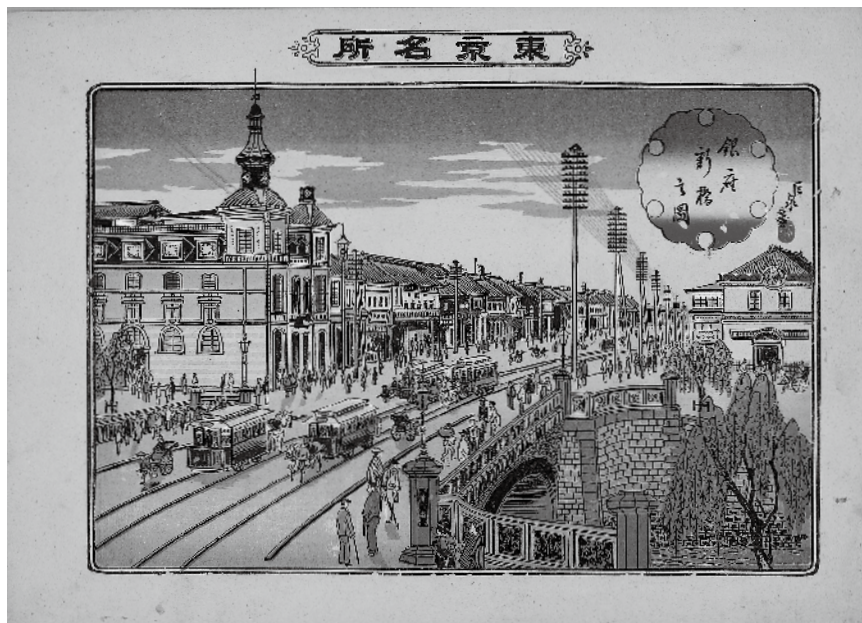
【図15】東京銘勝会 銀座通鉄道馬車

○銀座煉瓦街 新橋側

京橋側に対し、銀座煉瓦街の南端の新橋側を描いた開化錦絵の数はそれほど多くない。【図16】は新橋停車場を奥に描き、銀座煉瓦街と新橋停車場の地理的な位置関係を情報として知らせている。新橋は江戸時代以来の木橋で、1899年(明治32)に単アーチ鉄橋となる。同年、橋のもとには博品館勸工場が開業し、銀座煉瓦街の新橋側のランドマークが確立し、【図17】のような版画や写真絵葉書等でも新橋側も多く取り上げられるようになっていく。



【図16】東京新橋煉化石鉄道蒸気車真景図

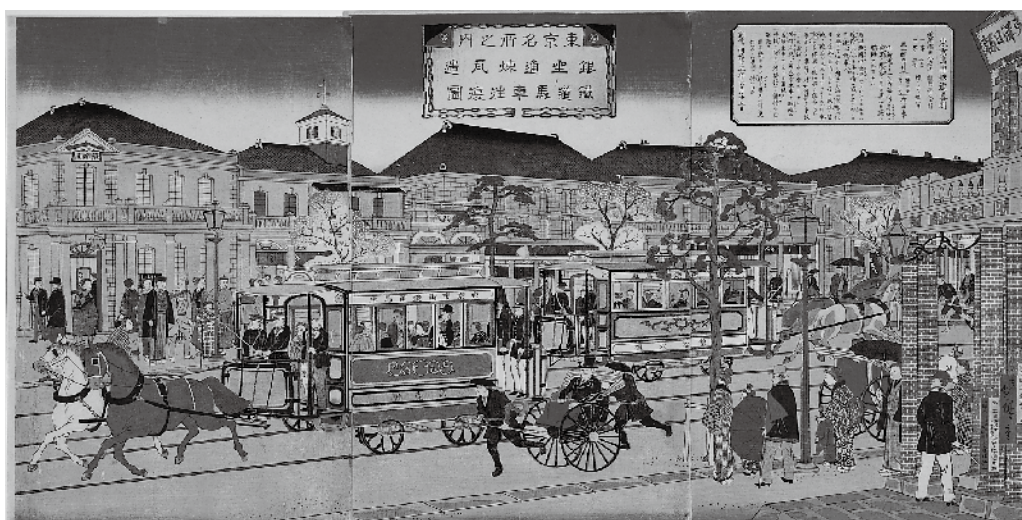


【図17】東京名所 銀座新橋之図

○朝野新聞社

朝野新聞社建物は、現在の銀座4丁目交差点の和光ビルの地に建っていた。四つ角のひときわ大きな建物は、開化錦絵でもいくつかの作例が見られる。新聞社の記者や社員の姿も描き込まれるものもある。

【図18】は、銀座4丁目の西側建物を東側から眺める構図である。朝野新聞社や、人力車の秋葉商店店舗も描かれる。手前は、現在の三越銀座店の位置にあたり、この錦絵が出された当時は、新聞の東洋新報が入っていた。開通したばかりの鉄道馬車が本図の中心ではあるが、銀座4丁目の当時の様子を伝える好資料である。



【図18】 東京名所之内銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図

○日報社

銀座煉瓦街の建物の内、単独で最も多く描かれたのは、日報社建物であろう。【図19】は、小林清親の「東京銀座街日報社」で清親の代表作の一つで、文明開化の明るい雰囲気的情景を描き出した作品であるが、同社がまだ銀座2丁目にあった当時を写したものである。日報社は1876年（明治9）12月31日に、銀座2丁目より尾張町1丁目の島田屋呉服店の旧店舗²²⁾に移転した。【図20】などでは、1873年から1875年に閉店に至るまでの呉服店での営業風景についても開化錦絵で描かれている。新聞社屋となった後も建物は注目を集め、【図21】などの東京名所の一つとして取り上げられた。

このように、ランドマークや名物としてすでに人々に知られていた京橋や新橋、鉄道、あるいは料亭松田や朝野新聞社、日報社、もしくは鉄道馬車などを描き込むことにより、建物が建ち並ぶ煉瓦街という名所絵を成立させようとした意図がうかがえよう。錦絵は、風景画の場合、購買者が見聞きした場所が描かれていることが、購入を促すポイントであった。そして、一度そのイメージが評判となって受け入れられれば、似たような画面が別の絵師の手によって作られる点も、江戸時代からの浮世絵の特徴と言え、4つの地点の作品が多い理由であった。

その他の場所を取り上げた錦絵は本当に僅かである。例えば、井上安治が、「東京銀座通煉化石造真

図」や「東京真画名所図解 銀座通夜景」【図22】で京屋時計店を中心に描き出し、「銀座商店夜景」で銀座3丁目の果物瓶詰店の中川章七商店を取り上げている。これは、安治が既存の浮世絵に倣うのではなく、自ら写生を行い制作していたスタイルのためであろう。



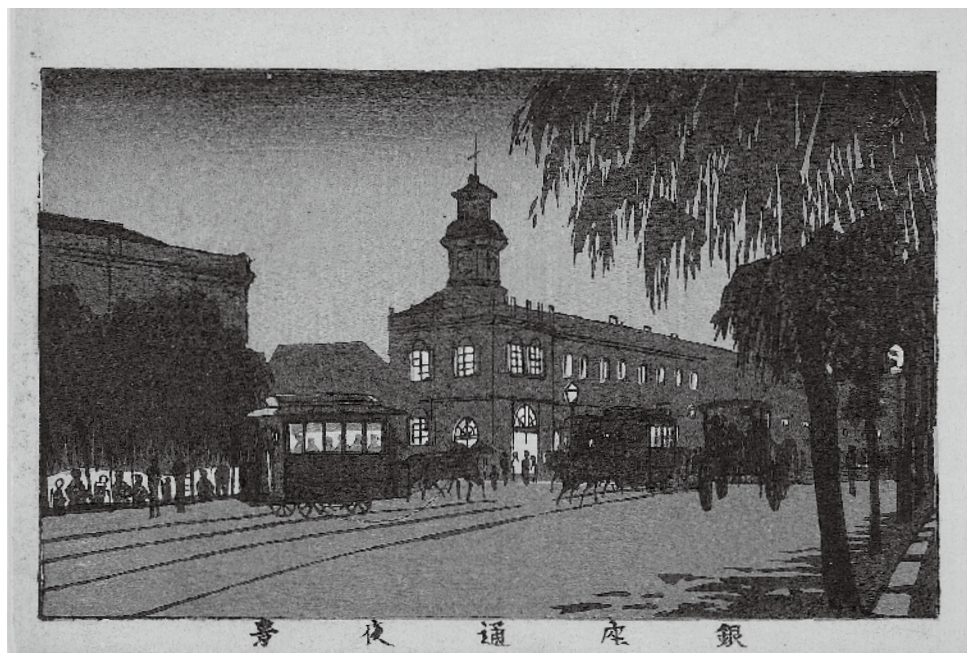
【図19】 東京銀座街日報社



【図20】 東京開化卅六景 尾張町島田店掛り



【図21】 東京名所図会 尾張町日々新聞日報社



【図22】 東京真画名所図解 銀座通夜景

4 米国議会図書館所蔵のステレオ写真について (海外所在資料)

明治期の銀座煉瓦街を写した写真は意外に多く残っていない。当館開館時には、国内の機関・個人の協力を仰ぎ、さまざまな古写真を集め、模型製作の参考にしている。今回の改修でもそういった古写真を見直すとともに、写真の撮影箇所や撮影年代の検討を行っていった。

明治後期の写真ではあるものの、当該模型範囲の銀座煉瓦街の様子をよく伝えるのが、【口絵15】【口絵16】の米国議会図書館所蔵のステレオ写真である。1904年(明治37)頃、いずれも通りの東側より、尾張町1丁目、尾張町新地、奥には銀座4丁目の服部時計店の方向を撮影した写真である。

【口絵15】は、通りに近隣の子供や商店の従業員などが繰り出し談笑する和やかな情景を写したものである。背後には、尾張町新地3番地の三河屋銅器店や太丸屋呉服店などの看板と店構えが見える。奥には、銀座3丁目の京屋時計店や八官町の小林時計店の時計塔なども見える。【口絵16】は、御高祖頭巾の女性客などを乗せた人力車が2台、新橋側へ移動する様子と、背後に日報社、荒井額面店、三河屋銅器店が見える。

この2枚の写真は、米国議会図書館の写真版画室に保管され、デジタル公開がなされていることから、今回の調査確認作業の中で確認できた。

今回の模型改修で、最も苦慮した点は、第1章の(10)で取り上げた日報社隣の蔵の有無であった。改修作業において、蔵を撤去し、一方で日報社隣の空地の塀は残すこととした。この塀は、古写真にも写され、【図23】の錦絵でもしっかり描かれているからである。ところが【口絵16】を拡大してみると(【図24】)、荒井額面店と日報社が路地はあるものの隣接して建ち並んでいることがわかる。つまり、煉瓦街



【図23】古今東京名所 おわり町日々新聞日報社

模型（【写真8】）で示すような日報社隣空地の塀と額面店が同時代的に並存していたのかは疑わしいと言えよう。しかし、今回の改修作業ではこれ以上の資料が見出だせないこと、また限られた時間の中での調査で今後も継続して検討すべき課題であることとして、塀はそのままとした。



【図24】口絵16 部分拡大図 LOC, LC-USZ62-125515



【写真8】銀座煉瓦街模型 日報社隣の空き地

おわりに

文明開化東京コーナーは、東京ゾーン最初のコーナーとして、資料、模型、パネル、体験資料でその諸相が理解できる、常設展示室内でも人気の高いコーナーの一つである。特に、銀座煉瓦街模型、鹿鳴館模型、ニコライ堂模型の3模型は、精緻な復元だけではなく、稼働の仕掛けも楽しめる点でさまざまな来館者の皆様よりご支持をいただいている。今回、銀座煉瓦街模型のさらなる魅力向上のため、検討を重ね、調査をし直し、変更を加えることとした。本稿はその記録と公開を目的にまとめたものである。しかしながら模型の持つ可能性はこれにとどまらないであろう。多くの方々に模型をご覧いただき、課題を抽出し、より良い展示と模型に向けてアイデアを出し合い、考えていくことが重要である。

なお、本模型及び常設展示室リニューアルにあたり、多くの皆様より多大なるご協力、ご教示を賜った。心より御礼申し上げます。

【図版・写真リスト】

	名称等	作者等	年代	所蔵等
口絵13	銀座煉瓦街模型（正面）			2015年12月 館撮影
口絵14	銀座煉瓦街模型（側面）			2015年12月 館撮影
口絵15	ステレオ写真 銀座中央通り 子供たち	Underwood & Underwood, New York	1904年（明治37） 頃	米国議会図書館所蔵 LOC, LC-USZ62-125514
口絵16	ステレオ写真 銀座中央通り 人力車	Underwood & Underwood, New York	1904年（明治37） 頃	米国議会図書館所蔵 LOC, LC-USZ62-125515

	名称等	所蔵等
写真1	銀座煉瓦街模型の範囲（銀座煉瓦街模型 解説板）	2015年12月 筆者撮影
写真2	銀座煉瓦街模型 南東側の建物模型	2015年12月 筆者撮影
写真3	銀座煉瓦街模型 通りの両側	2015年12月 筆者撮影
写真4	銀座煉瓦街模型 窓の増設	2015年12月 筆者撮影
写真5	銀座煉瓦街模型 日報社	2015年12月 筆者撮影
写真6	銀座煉瓦街模型 解説板	2015年12月 筆者撮影
写真7	銀座煉瓦街模型 映像モニター	2015年12月 筆者撮影
写真8	銀座煉瓦街模型 日報社隣の空き地	2015年12月 筆者撮影

	名称等	作者等	年代	所蔵等
図1	『東京商工博覧絵』二編下 秋葉大助	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図2	『東京商工博覧絵』二編下 伊勢屋惣太郎	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図3	『東京商工博覧絵』二編下 友常組商会本店	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図4	『東京商工博覧絵』二編下 小倉萬次郎	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図5	『東京商工博覧絵』二編下 山田屋中北正吉	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵

図6	『東京商工博覧絵』二編下 平野屋庄三郎	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図7	『東京商工博覧絵』二編下 林左治衛	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図8	『東京商工博覧絵』二編下 清水谷商会	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図9	『東京商工博覧絵』二編下 内田安兵衛	深満池源次郎 編・版	1885年（明治18）	国会図書館所蔵
図10	『東京営業便覧 第一輯』（部分、一部編集）	博報堂	1900年（明治33） 2月23日	当館蔵
図11	「東京京橋区銀座附近戸別一覧図」（部分）	平田勇太郎	1902年（明治35）	国会図書館所蔵
図12	「大銀座街大観」（部分、一部編集）	資生堂化粧品部	1921年（大正10）	当館蔵
図13	第一大区従京橋新橋迄煉瓦石造商家蕃昌貴賤敷沢盛景	歌川国輝（2代）／画	1873～5年（明治6～8）頃	当館蔵 90209804～6
図14	東京開化名勝京橋石造銀座通り両側煉化石商家盛栄之図	歌川広重（3代）／画	1874年（明治7）	当館蔵 88208046～8
図15	東京銘勝会 銀座通鉄道馬車	歌川国利／画	1886年（明治19）	当館蔵 89200835
図16	東京新橋煉化石鉄道蒸気車真景図	歌川国輝（2代）／画	1874年（明治7）	当館蔵 91210309～11
図17	東京名所 銀座新橋之図	川崎巨泉／画	1899年（明治32）頃	当館蔵 87102243
図18	東京名所之内銀座通煉瓦造鉄道馬車往復図	歌川広重（3代）／画	1882年（明治15）	当館蔵 89200832～4
図19	東京銀座街日報社	小林清親／画	1876年（明治9）	当館蔵 85200702
図20	東京開化卅六景 尾張町島田店掛り	歌川広重（3代）／画	1873～5年（明治6～8）頃	当館蔵 90200039
図21	東京名所図会 尾張町日々新聞日報社	歌川広重（3代）／画	1880年（明治13）	当館蔵 02303901
図22	東京真画名所図解 銀座通夜景	井上安治／画	1882～89年（明治15～22）	当館蔵 85200752
図23	古今東京名所 おわり町日々新聞日報社	歌川広重（3代）／画	1884年（明治17）	当館蔵 94201348
図22	口絵16 部分拡大図	Underwood & Underwood, New York	1904年（明治37）頃	米国議会図書館所蔵 LOC, LC-USZ62-125515

【註】

- 1) その他、銀座煉瓦街に関して、「一等煉化家屋払下帳」（東京都公文書館蔵）等の一次資料に基づいた研究には、『都史紀要三 銀座煉瓦街の建設』（東京都、1955）や藤森照信「開化の街づくり－銀座煉瓦街計画」（『明治の東京計画』（岩波書店、1982／岩波現代文庫、2004、pp.1-56））がある。
- 2) 今回の常設展示リニューアルにより、江戸ゾーンと東京ゾーンの間に、新たに「江戸から東京へ」コーナーが新設された。新コーナーでは、リニューアル前の「文明開化東京」コーナーで取り上げられていた黒船来航から江戸城開城、上野戦争までを扱っている。そのためリニューアル後の「文明開化東京」は、明治維新以降からの展示となった。
- 3) 当該コーナーには、同じく25分の1の縮尺「第一国立銀行模型」も展示中である。
- 4) この計画を実現するきっかけの一つに、当館広報協力の、NHK「探検バクモン」（「江戸・東京400年タイムトラベル 文明開化編」（放送：2013年6月26日／再放送：2013年7月13日））にて模型に接近して小型カメラで撮影を行う収録経験があった。
- 5) 建物名では、（西側）山野楽器～ニューメルサ。（東側）三越銀座店～みずほ銀行銀座通支店（2015年12月現在）。図1は、「銀座煉瓦街模型」解説板より転載。
- 6) 本模型のリニューアルの設計・施工業務は、(株)トータルメディア開発研究所が受託した。
- 7) 『復元 文明開化の銀座煉瓦街』（ユーシープランニング、1994年、pp.58-61）
- 8) リニューアル前の演出は、「朝野新聞投石事件」「人力車夫と鉄道馬車の馱者の喧嘩」「尾張町三河屋万引き事件」を中心に扱ったものであった。リニューアル後の演出は、銀座煉瓦街の概要（歴史、建物、店舗、乗り物）とした。演出は約3分間で、案内員による解説、生活音などの音響、スポット照明で展開している。
- 9) この蔵を設置した根拠は報告書に記載はないが、歌川広重（3代）画の三枚続錦絵「京橋区銀座通尾張町煉瓦造之真図」に蔵の屋根が見えることからではないかと推察している。同図は、樋口弘『幕末明治開化期の錦繪版畫』（味燈書屋、1943年、図71）、『都史紀要三 銀座煉瓦街の建設』（東京都、1955、p.150口絵）に掲載がある。ただし錦絵からは、リニューアル前の本模型ほど通りに近い場所に建っていたとは判断しかね、煉瓦家屋の裏に建てられていたように見える。
- 10) 内閣文庫所蔵「東京府史料」（「東京府史料 政治之部 工業（煉瓦屋建築1-5）3（明治5-10年）」三十一丁）
- 11) この煉瓦街最大の建物は、江戸からの有数の呉服商・両替商の島田八郎左衛門の島田組恵比寿屋呉服店が私費で建造し、1873年（明治6）に竣工した。しかし、島田組は翌1874年（明治7）12月に金融政策のあおりを受け破産となり、煉瓦街の店舗は翌年10月に閉店した。同建物は1876年（明治9）に東京府によって再払下げが行われ、「東京日日新聞」の日報社が移転したのはその年の暮れで、1877年（明治10）1月4日より新社屋での刊行が開始した。
- 12) 石黒敬章『幕末・明治のおもしろ写真 続 コロナ・ブックス 45』（平凡社、1998、pp.135-139）等
- 13) 朝野新聞社機械場に煙突があったことが、1885年（明治18）1月25日付「絵入朝野新聞」の尾形月耕挿絵から明らかである。しかし同社機械場の住所は、明治10年代後半には尾張町新地八番地であったことが判明した。また、明治初期の銀座を撮影した古写真からも、朝野新聞後方に煙突は見られなかった。
- 14) 国会図書館等蔵。銀座全域の商店名、店主名、業種などが地図として記載されている。同資料の原寸複製版が、雑誌『銀座文化研究』付録として発行されている（第1号～第4号）。
- 15) 喜多川周之氏の研究の内、同資料を利用したものに、浅草の通り沿いの店舗の店名・業種を紹介した「明治33年 浅草大通り両側一覽 その一 浅草橋より雷門まで」（『浅草寺文化』第10号、1975年）がある。
- 16) 本絵図をもとにした立面図が「モダン東京街並みマップ 銀座」『東京人』62号（1992年11月、pp.30-31）に掲載がある。また同年代の資料に、「銀座 銀座通り案内」（京新連合会、1922年9月11日）（赤岩州五ほか『銀座 歴史散歩地図：明治・大正・昭和』（草思社、2015）pp.44-51 所収）がある。
- 17) 尾崎倭美「銀座の書誌 その一」（『銀座文化研究』第1号、1986年、pp.60-68）によれば、日本画家の岡不崩（1869-1940）が震災後の街を歩き、実地踏査して描いた手稿本である。
- 18) 師岡宏次「銀座一丁目～八丁目（中央通り） 明治～大正～昭和 銀座散歩店舗一覽」『銀座残像』（日本カメラ社、1982年、pp.152-158）。
- 19) 師岡、前掲書ほか、『震災復興＜大銀座＞の街並みから』（銀座文化史学会、1995）、『東京銀座商店建築写真集』（吉田工務所、1929）等。
- 20) 「五千分の一 東京図測量原図」（参謀本部陸軍部測量部 1883-4年（明治16-7）、「躍進大銀座街之図」（東京商工

案内社、1935年11月）（※当該模型部分については、原田豊『銀座百年の定点観測 小間物商原田久兵衛伝』（風媒社、1988年、pp.60-61掲載有）、戦後の住宅地図を参考にした。

- 21) 料亭松田は、幕末から明治にかけて評判となった。野口孝一『明治の銀座職人話』（青蛙房、1983年、p.119）によれば、「二階建の煉瓦家屋で、間口も広く立派なもの」で、「二階へ上がる階段の突き当たりに舶来のギヤマン大鏡が嵌め込んであった。これが評判となり、松田の大鏡で人気を取り戻した」という。明治末には、日本火災保険会社が入った。
- 22) 島田屋呉服店の建物は、間口16間、奥行10間と銀座煉瓦街の中でも随一の大きさを誇る建物であった。同店の図面が、藤森氏前掲書（岩波書店、2004、図版 図7）に掲載される。

【別表1】中央通り西側の店舗の変遷

模型 番号	地番	「一等煉瓦家屋払下帳」 (東京都公文書館蔵) 明治5-9年 間口×奥行 譲受人名	当館模型 明治10年代後半	『東京営業便覧』 明治33年	『東京市京橋区銀座附近戸別一覽図』 (国会図書館蔵) 明治35年	『銀座』(資生堂発行) 大正10年	『楽只園主人『帝都復興一覽』』 (国会図書館蔵) 大正13年	『安藤更生『銀座細見』』 昭和5年12月	『師岡宏次『銀座残像』』 昭和57年4月	現代(参考・推定)	現代(参考・推定)
D-8	銀座四丁目4番地		時計店 (架空)	自転車商 伊勢屋 垂水善之助	自転車及附属品輸入商 伊勢屋 垂水善之助	山野楽器店	楽器 山野	山野楽器店	山野楽器店	山野楽器店	
D-7	銀座四丁目4番地	2.5×5間 加納久宣	書籍店 (想定)								
D-6	銀座四丁目4番地	3×5間 加納久宣	皮具店 (想定)	靴商 伊予田友三	皮具商 伊勢惣 松田惣平	日本屋靴店	クツ 日本屋				
D-5	銀座四丁目5番地		空き家 (架空)	時計器械商 伊勢屋 清水惣太郎	時計眼鏡類 伊勢惣 清水惣太郎	寺内時計店	時計 寺内	木村屋パン	木村屋	木村屋	
D-5a	銀座四丁目5番地		糸商 (想定)	金庫製造所 名産商会	実業新聞社 にびき社 青木	銀座郵便局	銀座郵便局				三越 銀座店
D-4	銀座四丁目6番地		人力車製造業・秋葉大助	人力車馬車製造所 秋葉大子	馬車人力車 秋葉大子	秋葉商店人力車店	洋品 関口				
D-3	銀座四丁目7番地	3×5間 隈川宗悦	時計店・伊勢屋	洋酒商 三河屋 保坂秀次郎	西洋酒食料品 三河屋 保坂秀次郎			服部時計店建築場	和光	和光	
D-2	銀座四丁目7番地	3×5間 米倉敬一郎	食料品店 (架空)			服部時計店建築場	三越呉服店マーケット				
D-1	銀座四丁目8番地	6×南5.587・北8 乙部鼎	朝野新聞社	時計商 服部金太郎	時計商 服部金太郎						
晴海通り											
C-12	尾張町新地1番地		綿フランネル販売店・小倉万次郎	京橋銀行	京橋銀行	八十四銀行京橋支店					
C-13		4×南7.5・北5.5 小倉万次郎	郵便支局			第八十四銀行		昭和銀行支店		三愛	三愛
C-14			小間物屋 (想定)	金銀細工師 平田文吉	小間物商 平田文吉	真下五郎事務所					
C-11	尾張町新地1番地	3×5間 原田久蔵	足袋屋 佐野屋 (想定)	足袋商 伏野屋 原田久蔵	足袋商 佐野屋 原田久蔵	佐野屋足袋店	足袋 さのや	佐野屋足袋店			
C-10	尾張町新地1番地	3×5間 高橋定吉	洋品店 (想定)	西洋小間物商 木屋 中野徳兵衛	洋品商 中野徳兵衛	鳩居堂建築場	(残骸) 自転車病院	鳩居堂	鳩居堂	鳩居堂	
C-9	尾張町新地1番地	3×5間 熊谷直次	西洋酒問屋・友常組商会本店	筆墨商 鳩居堂 熊谷直元	筆墨商 鳩居堂 熊谷直次	鳩居堂	魚市				
路地											
C-8a	尾張町新地2番地	3×5間 松井常吉	書店 (架空)	書籍店 昇栄堂	下駄商 川町	栗原下駄店	雑貨	煙草 須田	日本堂時計店	田崎真珠	
C-8			そば屋	生蕎麦 長寿庵 松倉八十吉	図書 田沼書店	川本美術店	菓子 松月	カフェー松月			
C-7	尾張町新地2番地	3×5間 安西重兵衛	乾物屋・大黒屋	鶏卵問屋 大黒屋 安西徳太郎	鶏卵海苔鯉節 大黒屋 安西重兵衛	大黒屋鶏卵店	食料 大黒屋	食料大黒屋	ハンドバッグ 大黒屋	大黒屋ビル	
C-6	尾張町新地2番地	3×5間 加藤嘉兵衛	陶器屋・三河屋	瀬戸物商 三河屋 加藤友二郎	陶器商 三河屋 加藤友次郎	カミヤマ雑貨店	セトモノ 山上	オリンピック			
C-5	尾張町新地2番地	2×5間 菊池捨次郎	運送業・菊池捨次郎 (想定)	運送業 菊池捨次郎	運送業 菊池捨次郎	やまさん、もすりん店	モスリン やまさん	やまさん	アメリカ屋靴店	岩崎ビル ほけんの窓口	銀座 コア
C-4	尾張町新地2番地	2.5×5間 奥村善助	呉服店・太丸屋	呉服商 太丸屋 奥村善助	呉服商 太丸屋 奥村善助	太丸屋呉服店	呉服 大丸	呉服太丸屋			
C-3	尾張町新地3番地	2.5×5間 安西良助	人形商・若松嘉平 (想定)	銅鉄商 三河屋 加藤英一	三河銅器商 加藤英一	三河屋美術店	(新築中)	帆かけずし エハガキ 美佐古堂	ワシントン靴店	GU	
C-2	尾張町新地3番地	3×5間 新井市三郎	額面屋・荒井真画堂	額面商 真画堂 荒井市三郎	額面商 真画堂 荒井市三郎	荒井真画堂	絵額 荒井	洋品日華堂		ワシントン靴店	ワールドタウンビル プラダ
路地											
C-1	尾張町一丁目1番地	15×10間 福地源一郎	日報社	金庫商 川岐田商会 川井久宜	硝子板鏡 酒井芳次郎	ホスピタルサプライ商社 (残骸) 米国聖書会社		芝浦ビル カフェータイガー プレット・ホスピタル ファマシー 婦人帽子千代田 マツダランプ	森永キャンデーストア 文明堂 名鉄メルサ	ソフトバンク メルサ	銀座プラザ58 ファンケル ナカヤビル GEOX みずほ銀行

【別表2】中央通り東側の店舗の変遷

現代(参考・推定)	現代(参考・推定)	師岡宏次『銀座残像』 昭和57年4月	安藤更生『銀座細見』 昭和5年12月	楽只園主人『帝都復興『銀座』(資生堂発行) (国会図書館蔵) 大正13年	大正10年	『東京市京橋区銀座附近戸別一覧図』 (国会図書館蔵) 明治35年	『東京営業便覧』 明治33年	当館模型 明治10年代後半	「一等煉瓦家屋私下帳」 (東京都公文書館蔵) 明治5-9年 間口×奥行 譲受人名	地番 明治10年代後半	模型 番号		
山野楽器店 木村屋 和光	三越銀座店	三越銀座店	松村金銀店	(新築中)	松村金銀店	印紙及両替 松村伍助	古物商 松本伊介	両替商 (想定)		銀座四丁目12番地	F-8		
			路地										
			洋品 フチャ	久留米餅店	靴商 大石平造	靴商 大石平造	靴商 (想定)	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目11番地	F-7			
			ネル 神谷	神谷ネル店	岐阜提灯及毛織物商 岐阜屋 神谷五平	岐阜提灯及毛織物商 岐阜屋 神谷五平	毛織物商・岐阜提灯 (想定)	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目11番地	F-6			
			パン 木村屋総本店	木村屋パン店	洋風菓子商 木村儀四郎	洋風菓子商 木村儀四郎	洋風菓子店・木村屋	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目11番地	F-5			
			半襟 紅谷	紅屋半襟店	業種商 平野豊次郎	茶商 平野豊次郎	業種商 平野屋	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目11番地	F-4			
			タバコ 出頭	出頭煙草店	煙草卸小売商 出頭商会	煙草卸小売商 出頭謙之助	書肆 (架空)	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目10番地	F-3			
(空地)	山崎洋服店雑貨部	象牙彫刻・内国通運取扱店 北村屋 池田伝吉	象牙彫刻・内国通運取扱店 北村屋 池田伝吉	象牙店 (架空)	3×5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目9番地	F-2						
	山崎洋服店	中央新聞社	中央新聞	絵入朝野新聞社	3×9.5間 宮田藤左衛門	銀座四丁目9番地	F-1						
晴海通り													
三愛 鳩居堂 田崎真珠 大黒屋ビル 岩崎ビル ほけんの窓口 GU ワシントン靴店 ソフトバンク メルサ	中央通り(銀座大通り)	銀座日産ギャラリー	カフェーライオン	カフェーライオン	カフェーライオン	毎日新聞社 島田三郎	毎日新聞	毎日新聞		尾張町新地7番地	E-18		
			美濃常	美濃常商店 (新築中)	美濃常洋品店	洋品商 美濃屋 山田常吉	西洋小間物商 美濃屋 山田常吉	洋品店 (架空)		尾張町新地6番地	E-17		
			ハッピーンガー	喫茶 キュービー	八十四銀行所有建築場	宝石類・洋品商 玉屋分店 宮田庄三郎	宝石類・洋品商 玉屋分店 宮田庄三郎	舶来品販売店 平野屋庄三郎		尾張町新地6番地	E-16		
			牛鳥 早川亭	鳥料理		毛織物商 鈴木商店 鈴木一作	唐物敷物商 鈴木一作	毛織物店 (架空)		尾張町新地6番地	E-15		
			十一屋	洋食器 十一屋	十一屋食器店	洋燈・硝子器具商 十一屋 木村新太郎	洋灯商 十一屋 木村新太郎	洋燈・硝子器具店 十一屋		尾張町新地5番地	E-14		
			モスリン 藤屋	(空地)	中北機械店	機械商 山田屋 中北庄吉	鉄物商 山田屋 中北庄吉	西洋建築鉄物店 山田屋		尾張町新地5番地	E-13		
			靴 折山	クツ オリヤマ	堺屋手拭店	足袋商 堺屋 高山清助	太物商 堺屋 青山清助	唐物商 堺屋		尾張町新地5番地	E-12		
			時計 大勝堂	時計 大勝堂	大勝堂時計店	時計商 大勝堂 槇野辰三	時計商 大勝堂 槇野辰造	時計商		尾張町新地4番地	E-11		
			呉服 増見屋	自転車 タカラ商会	大竹額縁店	有松紋・呉服商 源屋 山高円工	呉服洋物商 源屋 嵩円工	空き家 (架空)		尾張町新地4番地	E-11a		
			洋品 関口	(空地)	荒川オモチャ店	永菓物商 かもや 小林徳三	永菓子商 かもや 小林徳蔵	砂糖商 小林 (想定)		尾張町新地4番地	E-10		
			千疋屋分店	(新築中)	加藤雑貨店	下駄商 松屋 松本幸八	反物商 松本幸八	下駄商 (想定)		尾張町新地4番地	E-9		
			ワールドタウンビル	ファッション・リザ (銀座オールド)		美古佐絵葉書店	シャツ商 美佐古堂		シャツ商 (架空)		尾張町新地4番地	E-8	
			路地										
			フタバ	雑貨 フタバ	折山靴店	双樹軒林家 林佐治衛	旅人宿 双樹軒 林佐治衛	乗客荷物取扱所 林佐治衛	3×5間 森清兵衛	尾張町一丁目2番地	E-7		
			銀座プラザ58 履物 やまとや ボディショップ	履物 やまとや 額縁 三美堂銀座売店	時計 金勝堂	時計 野嶋	金勝堂時計店	時計商 竹川町支店 青木元	電気機械及諸材料商 三石商会 石田千之助	舶来小間物商 (想定)	2.5×5間 高木嘉穂雄	尾張町一丁目2番地	E-6
					漆器水沢	家具	水沢漆器店	漆器商 押田屋 水沢市太郎	塗物商 押田屋 水沢市太郎	簾節商 (想定)	2.5×5間 増田巳之吉	尾張町一丁目2番地	E-5
					白牡丹	洋品 五品館	牧野沃度研究所	勸業場 山口幸次郎	第一勸工場 丸吉	西洋酒問屋 清水谷商会	5×5間 山口徳	尾張町一丁目3番地	E-4
						白牡丹	白牡丹銀座売店	鉄砲商 松井忠兵衛	鉄砲火薬信号器海員園 松井忠兵衛	袋物商 山口	2.5×5間 田島善助	尾張町一丁目3番地	E-3
					中屋シャツ	シャツ 中屋	中屋シャツ店	学校用品 明進堂 荒川常次郎	小間物商 明進堂 荒川常二郎	空き家 (架空)	3×5間 山口幸次郎	尾張町一丁目4番地	E-2a
		第一銀行支店	東海銀行支店 (残骸を任用)	東海銀行	しるこ商 初音 金子忠吉	汁粉店 初音 金子忠吉	菓子商 (想定)		尾張町一丁目4番地	E-2			
		みずほ銀行	第一勧業銀行銀座通り支店		内外煙草商 内田安兵衛	和洋煙草・両替店 内田安兵衛	煙草問屋・両替商 内田安兵衛	5×5間 内田安兵衛	尾張町一丁目4番地	E-1			